

## 「分析チャート・指標表示解説」

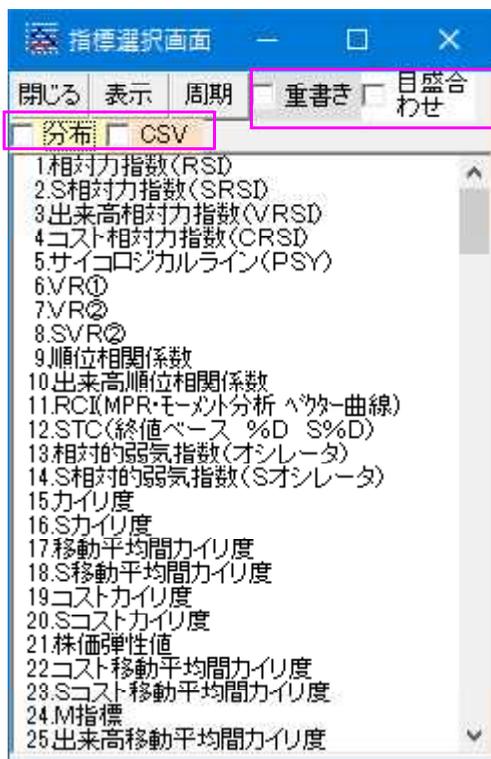
テクニカル指標を表示する時の様々な機能を解説していきます。

普通に指標を表示させるには、表示させたい指標を選択して、「表示」を押せばその指標グラフが表示されます。

周期を変更する場合は、「周期」を押して、数値を変更します。

これ以外にもいくつか機能があります。

「重書き」、「目盛合わせ」、「CSV」、「分布」といったものです。

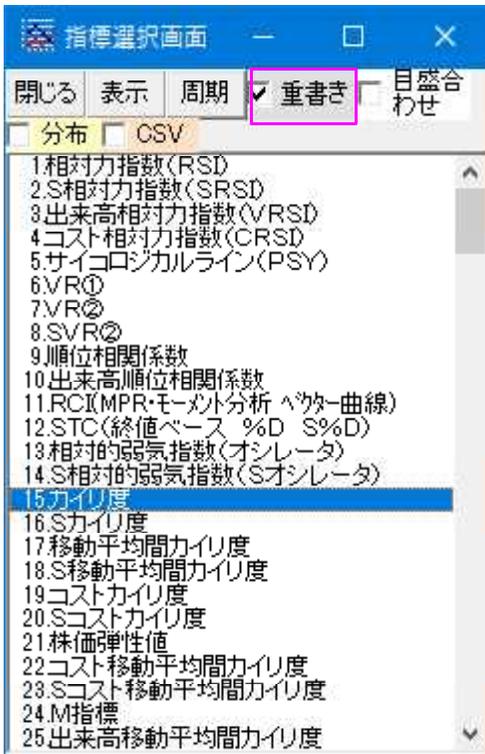


「重書き」とは、既に表示してある指標を消去せずに、追加で指標を表示させる場合に使います。

通常、同じ指標で周期を違えて表示する場合に使います。

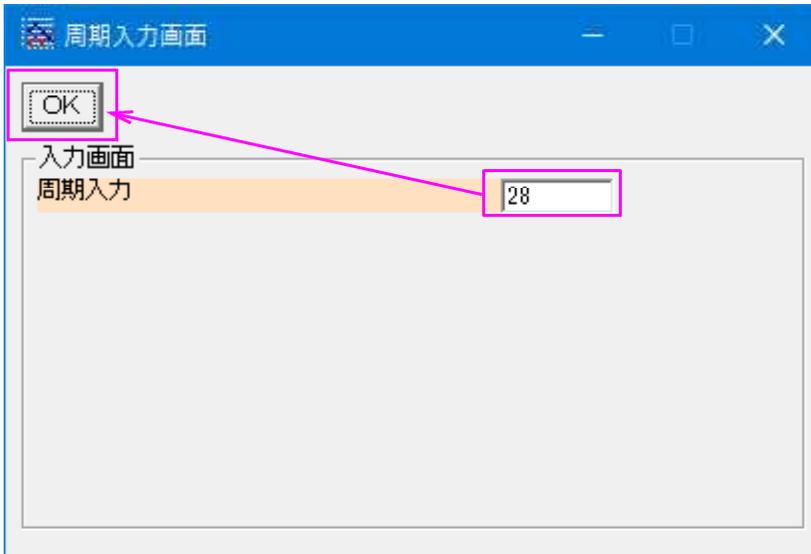
## ■手順 重書き

例、「1. 相対力指数」を普通にそのまま表示させます。

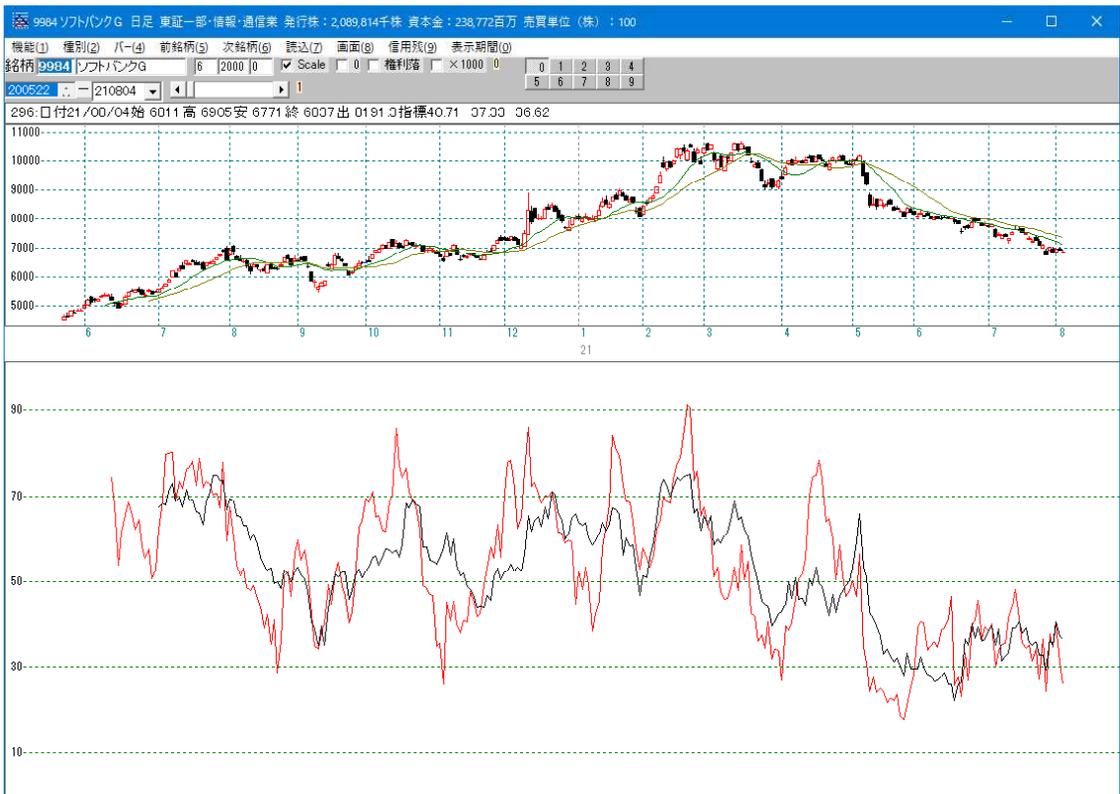


次に、「重書き」にチェックを入れ、「周期」を押して、数値を変更し、「OK」を押します。

「周期」の画面 28と入力し、「OK」



2つの指標が表示されました。



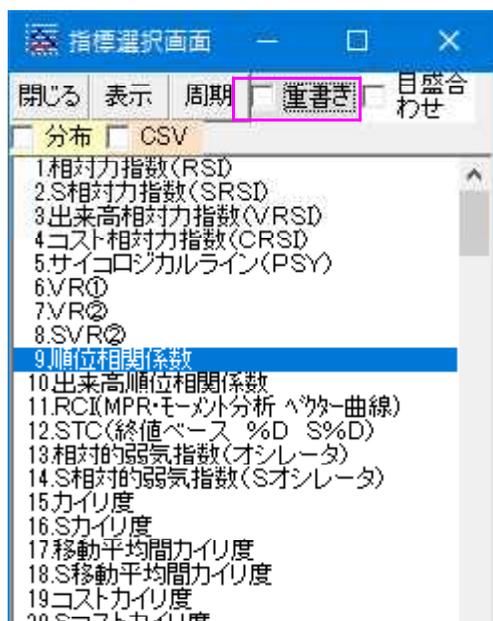
違う指標も表示出来ます。

このまま続けて、「9. 順位相関係数」を表示させてみましょう。

3つの指標が表示されました。

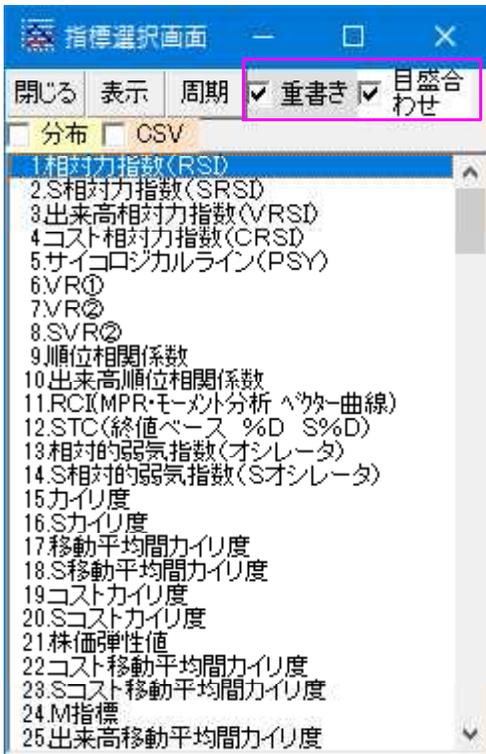


元の表示に戻したい場合は、「重書き」のチェックを外して、指標を表示させるだけです。



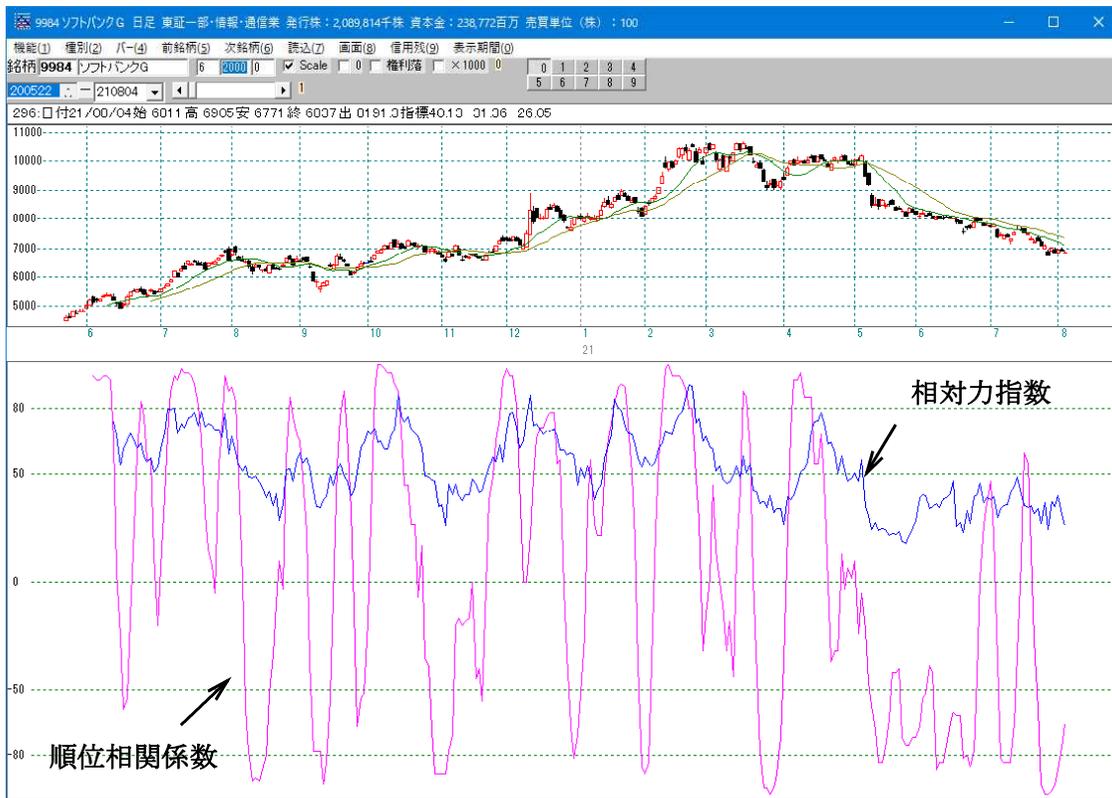
## ■目盛合わせ

例 「9. 順位相関係数」を普通に表示させます。



「重書き」と「目盛合わせ」にチェックをし、「1. 相対力指数」を表示させます。

2つの指標が表示されました。



順位相関係数係数は、 $-100 \sim +100$ の間を動く指標です。

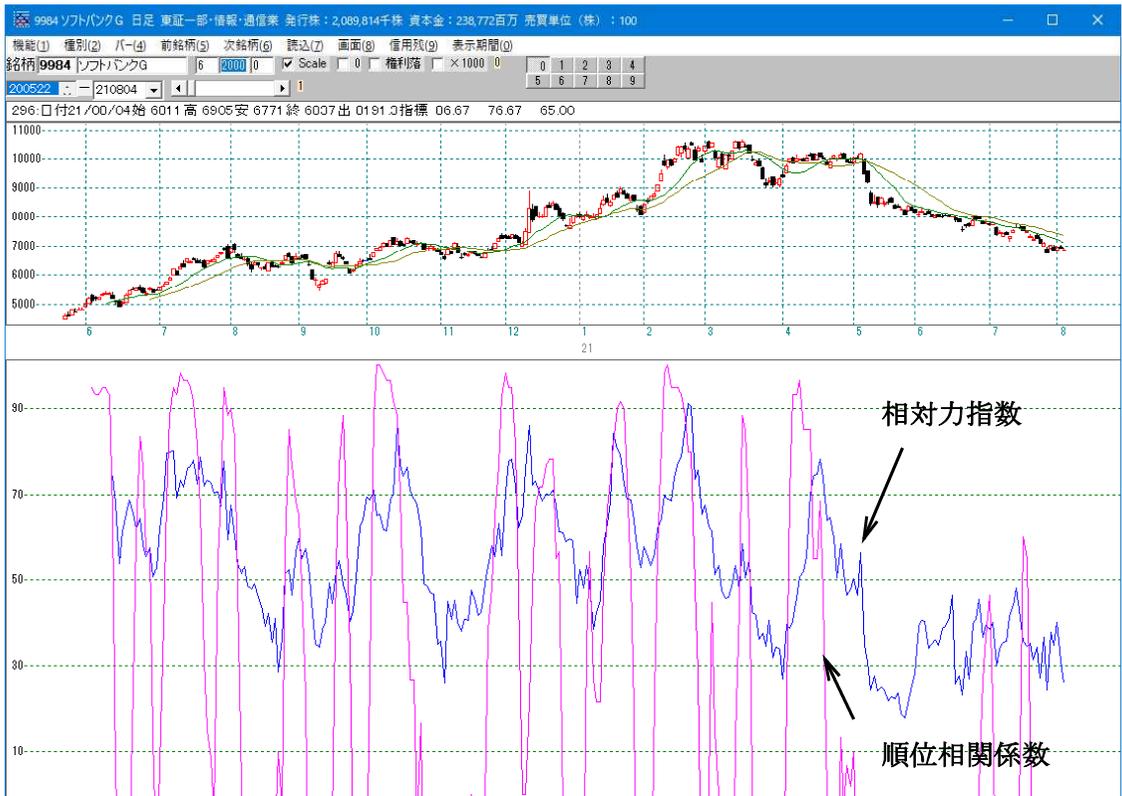
相対力指数は、 $0 \sim +100$ の間を動く指標です。

「目盛り合わせ」にチェックを入れると、先に表示されているレンジ（今回は順位相関係数の $-100 \sim +100$ ）に基づいて、次の指標が表示されます。

そのため、相対力指数は、指標表示エリアの上側にのみ表示される事となります。

順番を入れ替えるようになります。

先に「1. 相対力指数」を表示させ、「重書き」と「目盛合わせ」にチェックをし、次に「9. 順位相関係数」を表示させます。



相対力指数は、0～+100の間を動く指標です。

まずこのレンジが元になります。

順位相関係数係数は、-100～+100の間を動く指標です。

「目盛り合わせ」にチェックを入れると、先に表示されているレンジ（今回は相対力指数の0～+100）に基づいて、次の指標が表示されます。

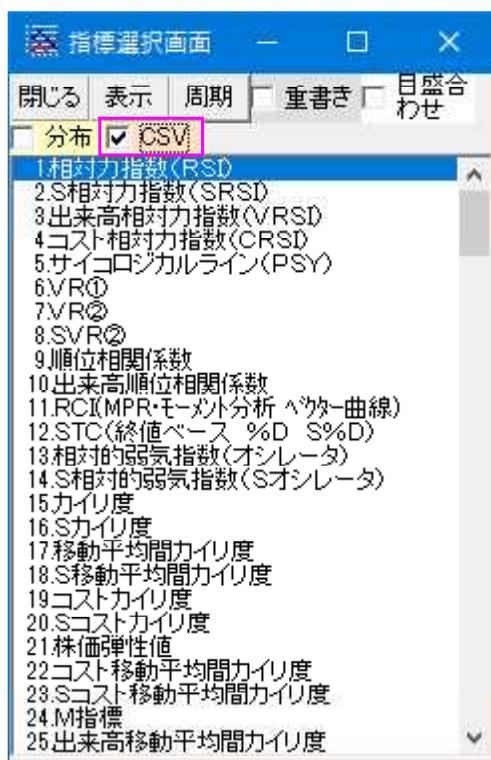
そのため、順位相関係数は「0」より上の時のみ表示される事となります。

0より下は表示出来ない（レンジが0～+100なので）ので切れた感じとなります。

## ■ CSV

表示した指標の数値をテキストファイルへ保存します。

例. CSVにチェックを入れ、「1. 相対力指数」を表示させます。



指標が表示される裏で、自動的にテキストファイルが作成されます。

特に何もメッセージなどは表示されません。瞬時の出来事なので、特段、気にする必要はありません。

どこに保存されるかという、J P法ソフトのデータフォルダである  
[C:¥WinJPDta]

そしてファイル名は  
[D9984-S001.csv]

これら保存先・ファイル名を変更する事は出来ません。固定です。

ファイル名の法則  
[D W M] [コード番号] [指標番号]

例. 週足 1004日経平均 21番、株価弾性値  
ファイル名 **W1004-S021.csv** となります。

自動では消えません。どんどん増えていきます。  
ハードディスクの容量は今は、大きいですから放置していて構いません。  
気になる向きは、手動でファイルを削除してください。

作成されたファイルはCSVファイルなので、EXCELから表示可能です。

1	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
2	9984	1. 相対力指数(RSD)										
3	9984	ソフトバンクG	日足	東証一部	情報	通信業	発行株:2,089,814千株	資本金:238,772百万	売買単位(株):100			
4	日付	始値	高値	安値	終値	値幅	出来高	指標	指標1	指標2	指標3	指標4
5	2020/5/22	4505	4664	4497	4607	4607	28275.8	0	0	0	0	0
6	2020/5/25	4662	4731	4577	4607	0	19463.1	0	0	0	0	0
7	2020/5/26	4650	4820	4644	4805	198	25658.5	0	0	0	0	0
8	2020/5/27	4763	4837	4721	4734	-71	24286.4	0	0	0	0	0
9	2020/5/28	4800	4875	4771	4827	93	28688.8	0	0	0	0	0
10	2020/5/29	4820	4888	4803	4832	5	21512.9	0	0	0	0	0
11	2020/6/1	4901	5037	4888	5018	186	27294.3	0	0	0	0	0
12	2020/6/2	5029	5220	5028	5185	167	27313.2	0	0	0	0	0
13	2020/6/3	5298	5315	5010	5121	-64	33204.3	0	0	0	0	0
14	2020/6/4	5221	5267	5081	5175	54	28472.4	0	0	0	0	0
15	2020/6/5	5150	5237	5132	5220	45	21335.8	0	0	0	0	0
16	2020/6/8	5289	5348	5248	5324	104	22764.1	0	0	0	0	0
17	2020/6/9	5324	5423	5320	5358	34	25035.5	0	0	0	0	0
18	2020/6/10	5324	5383	5307	5355	-3	18864.1	0	73.125	0	0	0
19	2020/6/11	5290	5378	5163	5185	-170	24753.2	74.204	75.191	0	0	0
20	2020/6/12	5085	5136	4965	5071	-114	34513.1	67.737	70.566	0	0	0
21	2020/6/15	5071	5156	4896	4905	-166	24198.8	53.919	60.408	0	0	0
22	2020/6/16	5034	5074	4915	5042	137	26553.2	61.475	53.906	0	0	0
23	2020/6/17	5060	5354	5047	5295	253	33935.4	65.579	47.835	0	0	0
24	2020/6/18	5330	5449	5288	5446	151	32340.5	68.629	43.788	0	0	0
25	2020/6/19	5500	5576	5470	5483	37	28569.8	65.51	43.485	0	0	0
26	2020/6/22	5461	5584	5429	5512	29	21944.8	62.013	44.36	0	0	0
27	2020/6/23	5600	5679	5433	5497	-15	41890.6	64.329	48.876	0	0	0
28	2020/6/24	5535	5545	5336	5396	-101	21338.8	58.131	53.337	0	0	0
29	2020/6/25	5320	5440	5317	5370	-26	17122.2	55.597	51.62	0	0	0
30	2020/6/26	5483	5579	5435	5533	163	20858.5	57.47	48.513	0	0	0
31	2020/6/29	5489	5510	5361	5380	-153	17002.7	50.725	45.744	0	0	0
32	2020/6/30	5472	5487	5431	5450	70	13309.9	52.997	42.558	0	0	0
33	2020/7/1	5460	5600	5459	5551	101	30304.7	62.071	39.31	0	0	0
34	2020/7/2	5629	5698	5594	5630	79	23721.3	68.872	36.698	0	0	0
35	2020/7/3	5697	5778	5675	5778	148	23892.4	79.836	38.531	0	0	0
36	2020/7/6	5839	5926	5805	5918	140	23873.2	79.877	43.192	0	0	0
37	2020/7/7	6000	6214	5992	6190	272	36006.4	80.135	50.14	0	0	0

指標の表示ですが、直前に表示した値が残っています。

相対力指数や順位相関係数は、1つの指標値なので書きかれますが、同時に2本表示される指標は2つの数値が保存されます。「指標」、「指標1」です。

2つの指標が表示した後、続けて、1つ表示の指標を表示させると、クリアしていないので「指標1」にも先の数値が残ったままとなります。

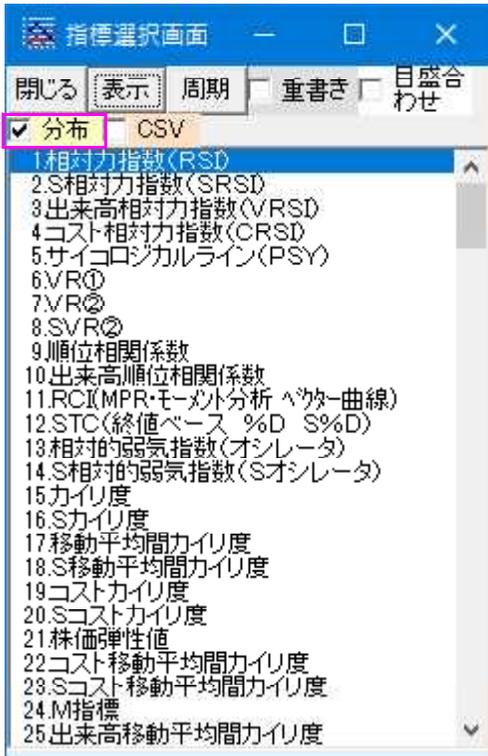
直前の指標が何本表示されたのか、を覚えておいて下さい。

ほとんどの指標は1本表示なので「指標」の部分だけを見て、「指標1」、「指標2」・・・は無視してください。

※「41. 一目均衡表」は、「指標」から「指標4」まで数値が入ります。続けて「1. 相対力指数」を表示させると、「指標1」から「指標4」は、一目均衡表の数値が残っていますので、無視してください。

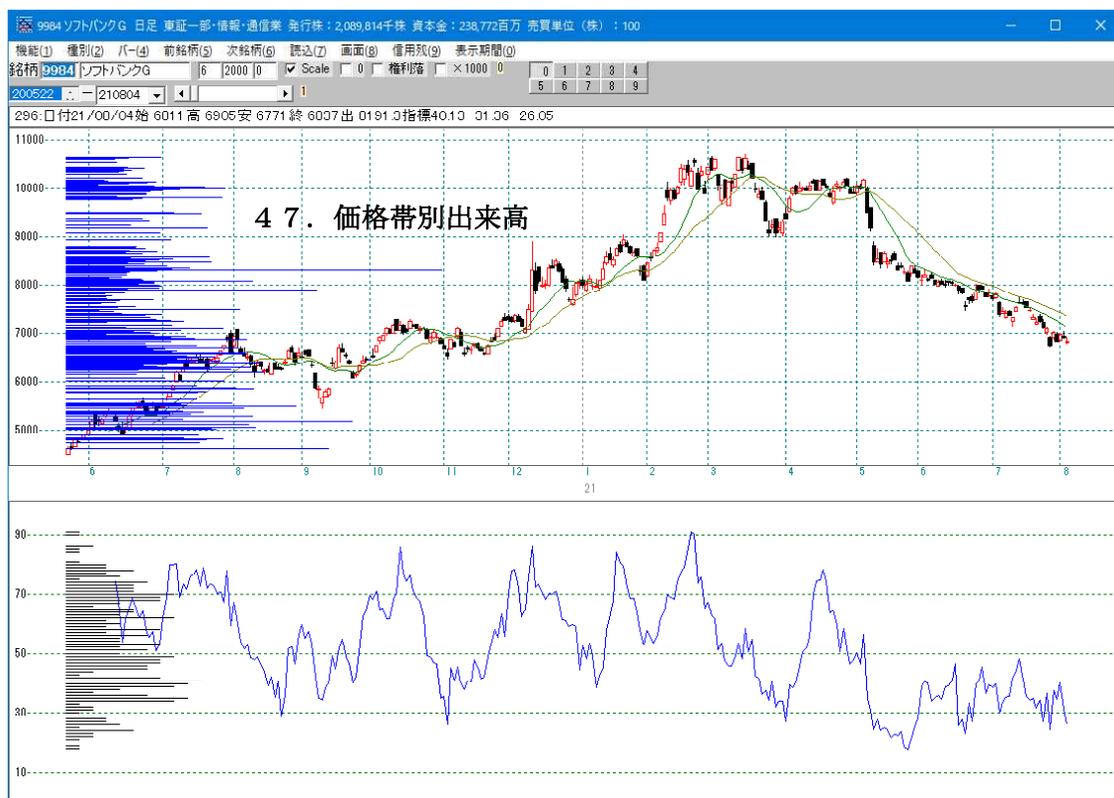
## ■分布

指標値 1 ポイント当たりの累計件数を表示します。



考え方は「47. 価格帯別出来高」と同じです。

株価を指標値に置き換えた分析手法です。



#### ■ 価格帯出来高

一値当たりの出来高の累計を横グラフで表示する。

どこで投資家が一番売買をしているか。どこら辺にしこりがあるか。が一目で分かる。過去において出来高が大量に出来ている株価は次にその株価まで下値から上がってきた場合に売りものも多く出てきやすいものである。

その結果、新高値をつけにくく抵抗線となりやすいために、テクニカル分析上注意すべきポイントとされる。

ここで、株価が抵抗線を抜いて高値を更新した場合（いわゆる「関門を抜く」）は、売りものが解消されたために、値動きが軽くなるとされる。

この上述の考え方を指標に当てはめたもの。

例えば、ある指標で数値が50の近辺のグラフが長い。今、指標値は30で上向きである。このまま上に行った場合、50で一旦抑えられるのではと考える。

一般的に指標は、上にいくほど株価も高くなりますので、株価が抑えられるとみます。

こうした考え方で指標の動きを捉えている投資家は、いないのではないのでしょうか。

いないからこそ、そこに光明があるかもしれません。

一般的に知れ渡っていない分析手法ですから。

※価格帯出来高は、流布されています。指標に当てはめたというのがミソです。